

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和 7 年 1 月 ～ 3 月実 績

令和 7 年 4 月 ～ 6 月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 164企業（回答率99.4%）
6. 調査対象期間 令和7年1～3月期実績及び令和7年4～6月期見通し
7. 調査時点 令和7年3月1日（土）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率（%）
製造業	38	23.0%	38	23.2%	100.0%
建設業	24	14.6%	24	14.6%	100.0%
小売業	49	29.7%	48	29.3%	98.0%
サービス業	54	32.7%	54	32.9%	100.0%
合計	165	100.0%	164	100.0%	99.4%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$\text{DI（数式）} = (\text{上昇企業数} - \text{低下企業数}) \div \text{回答企業数} \times 100$$

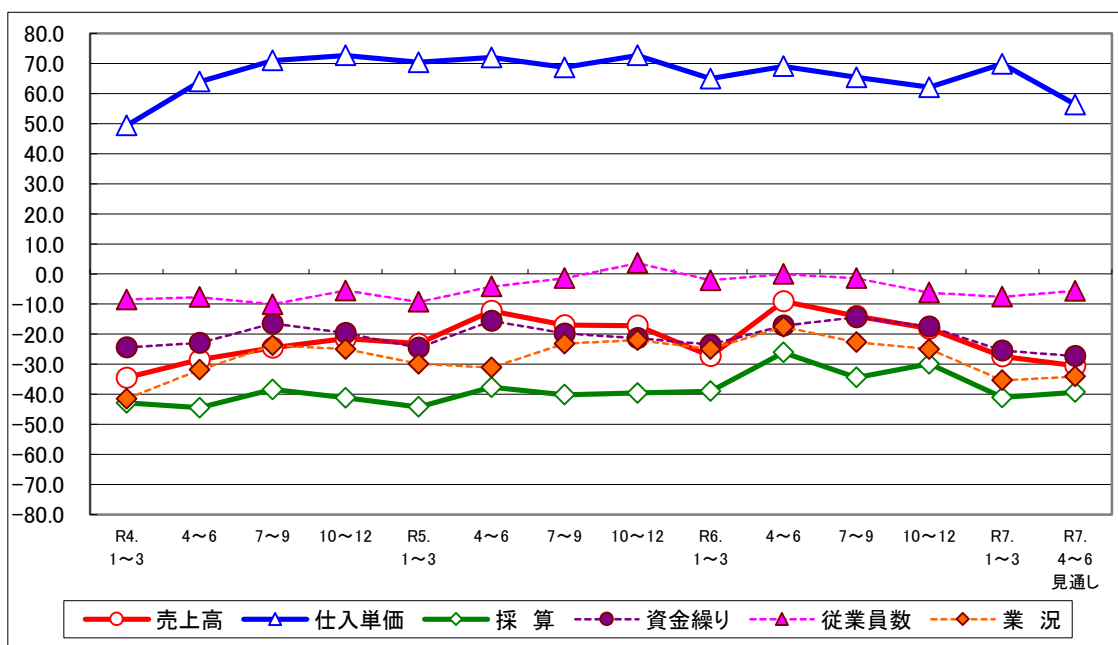
10. 分析執筆者 仁愛大学人間学部 教授、福井県立大学 名誉教授 南保 勝 氏

全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

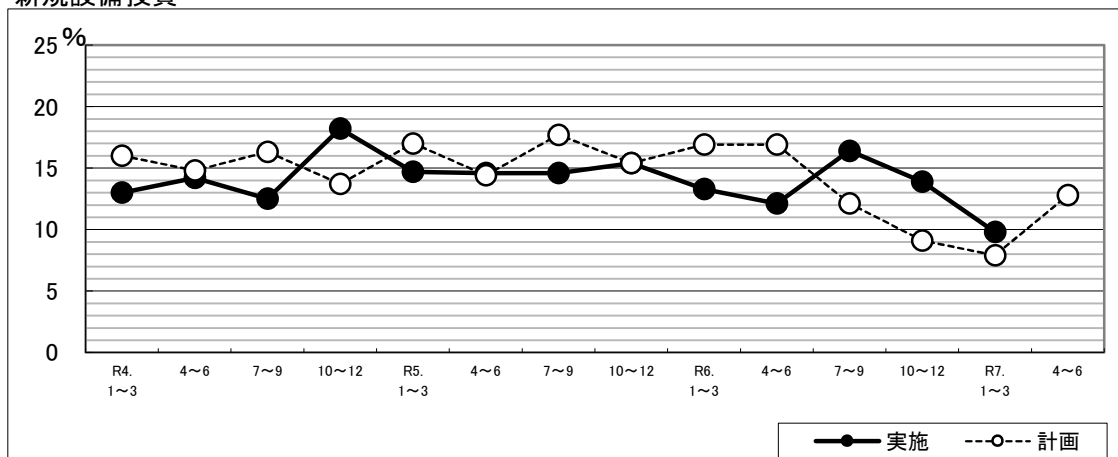
景気動向推移(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
R4.1～3	▲ 34.5	49.4	▲ 42.9	▲ 24.4	▲ 8.5	▲ 41.5
4～6	▲ 28.5	64.0	▲ 44.5	▲ 22.9	▲ 7.7	▲ 31.9
7～9	▲ 24.5	71.0	▲ 38.4	▲ 16.5	▲ 10.1	▲ 23.8
10～12	▲ 21.5	72.7	▲ 41.2	▲ 19.6	▲ 5.5	▲ 25.0
R5.1～3	▲ 23.2	70.4	▲ 44.2	▲ 24.5	▲ 9.3	▲ 29.9
4～6	▲ 12.3	72.0	▲ 37.7	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 31.1
7～9	▲ 17.0	68.7	▲ 40.2	▲ 19.8	▲ 1.4	▲ 23.2
10～12	▲ 17.2	72.7	▲ 39.6	▲ 21.3	3.6	▲ 22.0
R6.1～3	▲ 27.3	65.0	▲ 39.0	▲ 23.5	▲ 2.1	▲ 25.0
4～6	▲ 9.1	69.1	▲ 26.1	▲ 17.2	0.0	▲ 17.6
7～9	▲ 14.0	65.4	▲ 34.4	▲ 14.4	▲ 1.4	▲ 22.7
10～12	▲ 18.2	62.1	▲ 29.9	▲ 17.5	▲ 6.2	▲ 25.0
R7.1～3	▲ 27.4	69.9	▲ 41.1	▲ 25.5	▲ 7.6	▲ 35.4
R7.4～6見通し	▲ 30.5	56.4	▲ 39.3	▲ 27.3	▲ 5.6	▲ 34.1

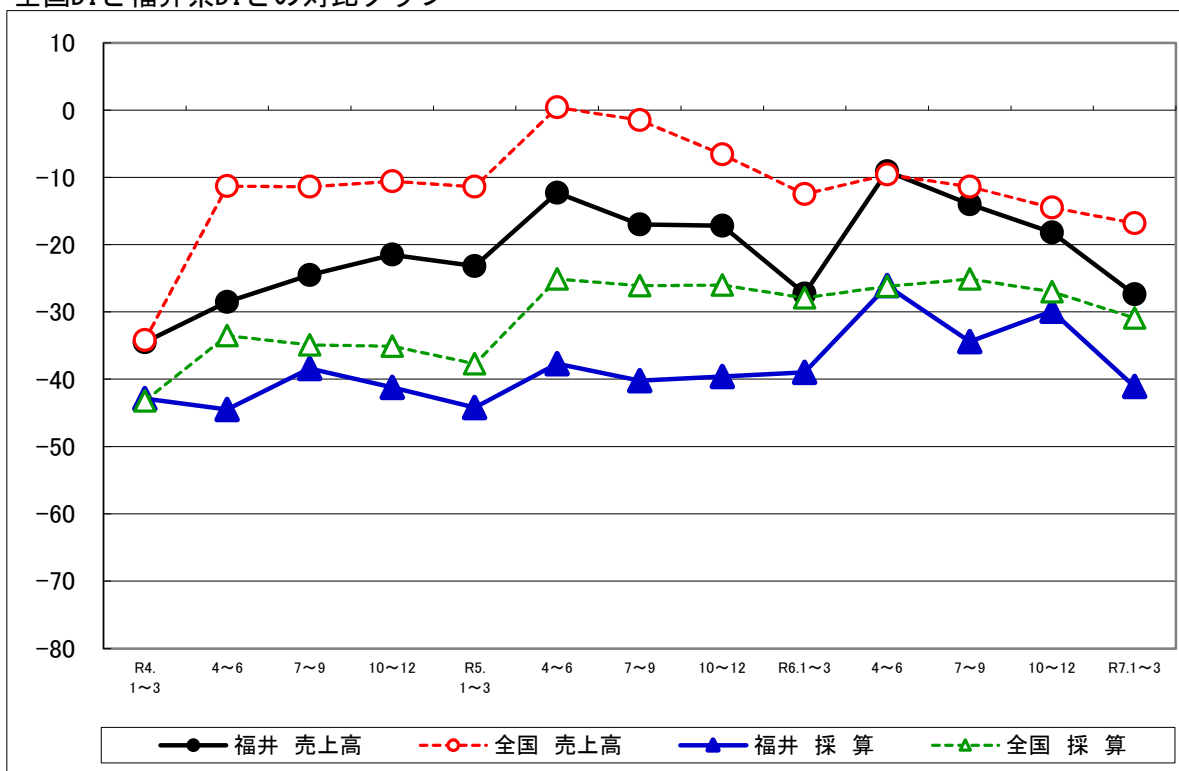
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R7年1～3月期の福井県経済を概観すると、個人消費は一部に足踏みがみられるものの、新幹線効果の継続による観光業の増勢などから需要が持ち直している。一方、生産活動も地場産業で眼鏡枠産業の復調が顕在化しているほか、主力の電子部品・デバイスが持ち直しているなど、緩やかな回復傾向を続けている。先行きについても、雇用・所得環境が改善する中で、各種の政策効果もあって、緩やかな回復が続くものと思われる。ただ、欧米や中国など海外景気の下振れには留意する必要がある。

こうした中、今回の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目全てが悪化傾向となっており、県内企業の景況は持ち直しているとはいえ、いまだ楽観を許さない状況であることがうかがえる。項目ごとのDI値をみると、売上高が前期▲18.2→今期▲27.4、仕入単価（逆指数）が前期62.1→今期69.9、採算が前期▲29.9→今期▲41.1、資金繰りが▲17.5→今期▲25.5、従業員数が前期の▲6.2→今期▲7.6、業況が前期▲25.0→今期▲35.4と各項目でマイナス傾向となった。ただ、先行き（R7年4～6月期）については、4項目で改善予想となっており、幾分の持ち直しが期待される。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、全国、福井県ともに悪化傾向となっているものの、全国に比べ福井県は、売上高、採算ともにその水準は低い。

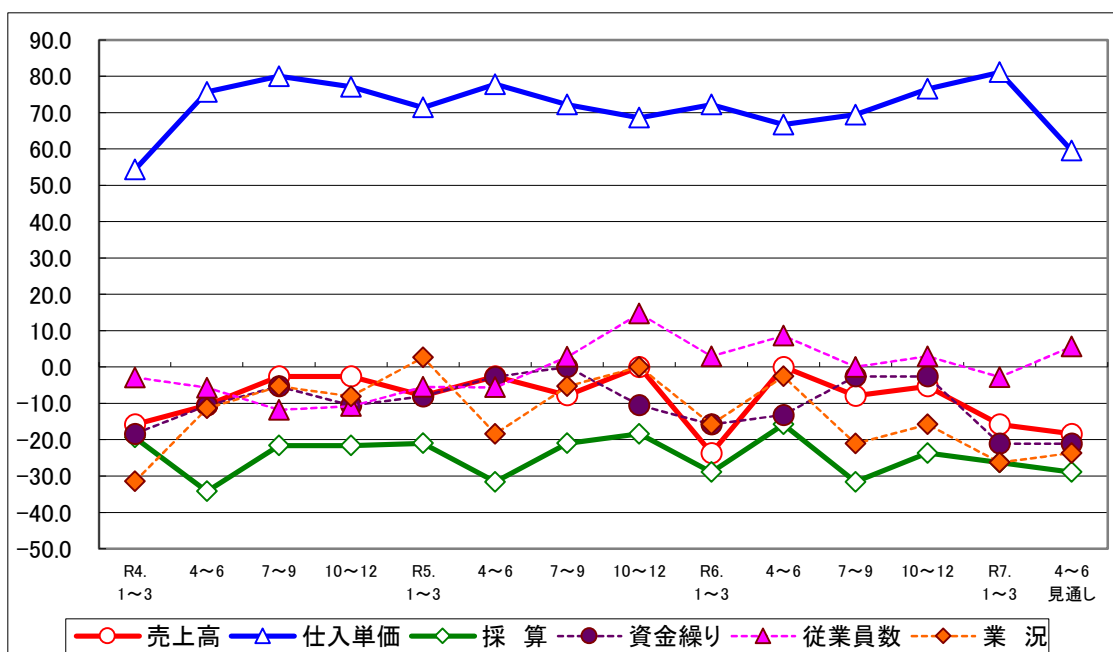
そのほか、今期の新規設備投資については、計画した企業7.9%に対し実施した企業が9.8%と、実施が計画を上回っている。先行きについては、計画している企業が12.8%で、今後の設備投資動向は、やや持ち直すことが期待される。

製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

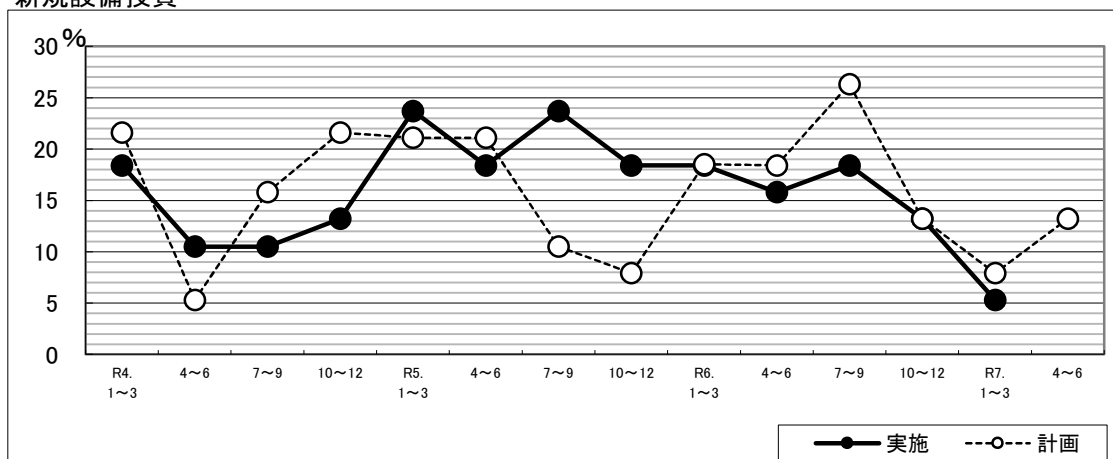
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
R4.1~3	▲ 15.8	54.3	▲ 19.4	▲ 18.4	▲ 2.9	▲ 31.5
4~6	▲ 10.5	75.7	▲ 34.2	▲ 10.6	▲ 5.7	▲ 11.4
7~9	▲ 2.6	80.0	▲ 21.6	▲ 5.3	▲ 11.8	▲ 5.3
10~12	▲ 2.6	77.1	▲ 21.6	▲ 10.6	▲ 10.8	▲ 8.1
R5.1~3	▲ 7.9	71.4	▲ 21.0	▲ 8.1	▲ 5.5	2.6
4~6	▲ 2.6	77.8	▲ 31.6	▲ 2.7	▲ 5.6	▲ 18.4
7~9	▲ 7.8	72.2	▲ 21.0	0.0	2.8	▲ 5.3
10~12	0.0	68.6	▲ 18.4	▲ 10.5	14.7	0.0
R6.1~3	▲ 23.7	72.2	▲ 28.9	▲ 15.8	2.9	▲ 15.8
4~6	0.0	66.7	▲ 15.8	▲ 13.2	8.6	▲ 2.6
7~9	▲ 7.9	69.4	▲ 31.6	▲ 2.6	0.0	▲ 21.1
10~12	▲ 5.3	76.5	▲ 23.7	▲ 2.6	2.9	▲ 15.8
R7.1~3	▲ 15.8	81.1	▲ 26.3	▲ 21.1	▲ 2.8	▲ 26.3
4~6見通し	▲ 18.4	59.5	▲ 28.9	▲ 21.1	5.6	▲ 23.7

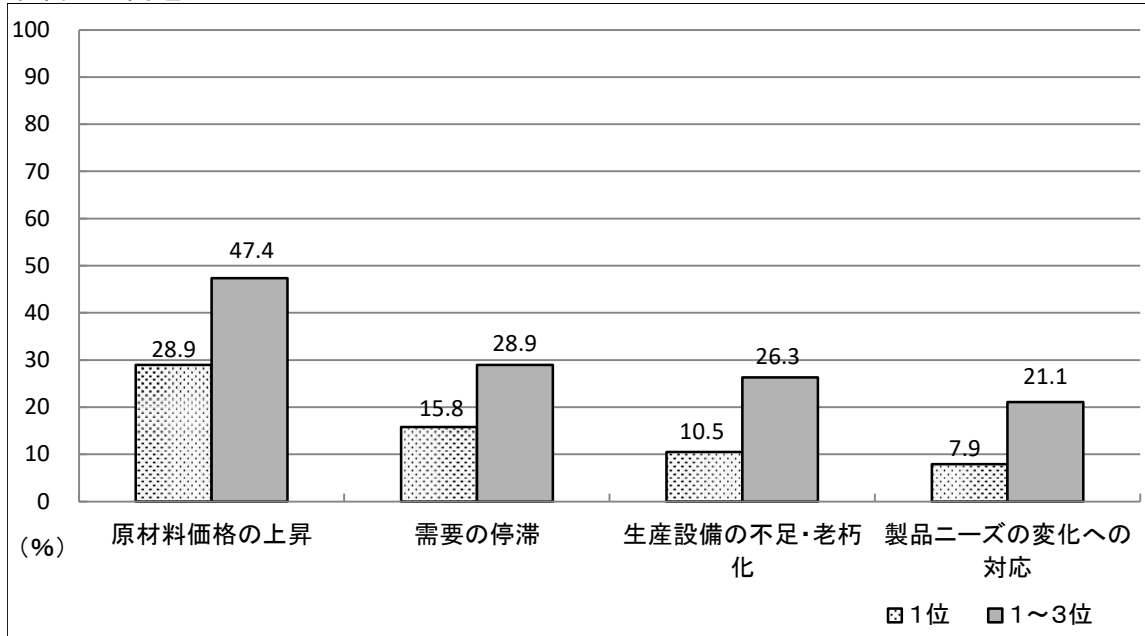
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・ 昨年の北陸新幹線の開業効果は継続していると思われますが、原材料諸経費の値上げによって利益は圧迫され、商品の値上げも再度検討しなければなりません。
- ・ 元請の受注が減少しているようで、当事業者への外注金額、外注量が減少していると感じる。原因は原材料の高止まりの長期化であり、小ロットの生産にシフトしているためである。連鎖赤字や倒産が増えると感じる。
- ・ 原料高、人件費高騰の経費上昇が大きい。賃上げについていけない。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、化学工業では合成樹脂等の化学製品を中心に足踏みの状況にあるが、主力の電子部品・デバイスがスマートフォン向けを中心に持ち直しているほか、プラスチック製品や非鉄金属でも持ち直している。また、地場産業では、繊維工業が非衣料向けで持ち直しているほか、眼鏡枠産業では品質の高さを背景に国内外で需要が高まっており、特に、海外向けでは円安傾向の追い風から、輸出向けが堅調に推移している。ただ、人手不足の深刻化に伴って生産能力の低下を訴える企業もみられ、一部では事業機会の逸失に繋がっている例もみられる。

こうした中、今期（R7年1～3月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目全てが悪化傾向となり、景況に不安を残す結果となった。中小の県内製造業では、仕入価格の上昇や人手不足が続いており、価格転嫁の遅れが目立つ企業を中心に予断を許さない状況にあることがうかがえる。ちなみに、項目別のDI値をみると、売上高が前期▲5.3→今期▲15.8、仕入単価（逆指数）が前期76.5→今期81.1、採算が前期▲23.7→今期▲26.3、資金繰りが前期▲2.6→今期▲21.1、従業員数が2.9→▲2.8、業況が前期▲15.8→今期▲26.3となっている。また、先行き（R7年4～6月期）については、DI値6項目中3項目が改善予想となっており、幾分の持ち直しへと進むことが期待される。

一方、新規設備投資の状況については、計画の7.9%に対し実施が5.3%にとどまり、やや精彩を欠く結果となった。ただ、先行き（R7年4～6月期）については、何らかの投資を予定する企業が13.2%となり、多少の改善が進むことが予想される。

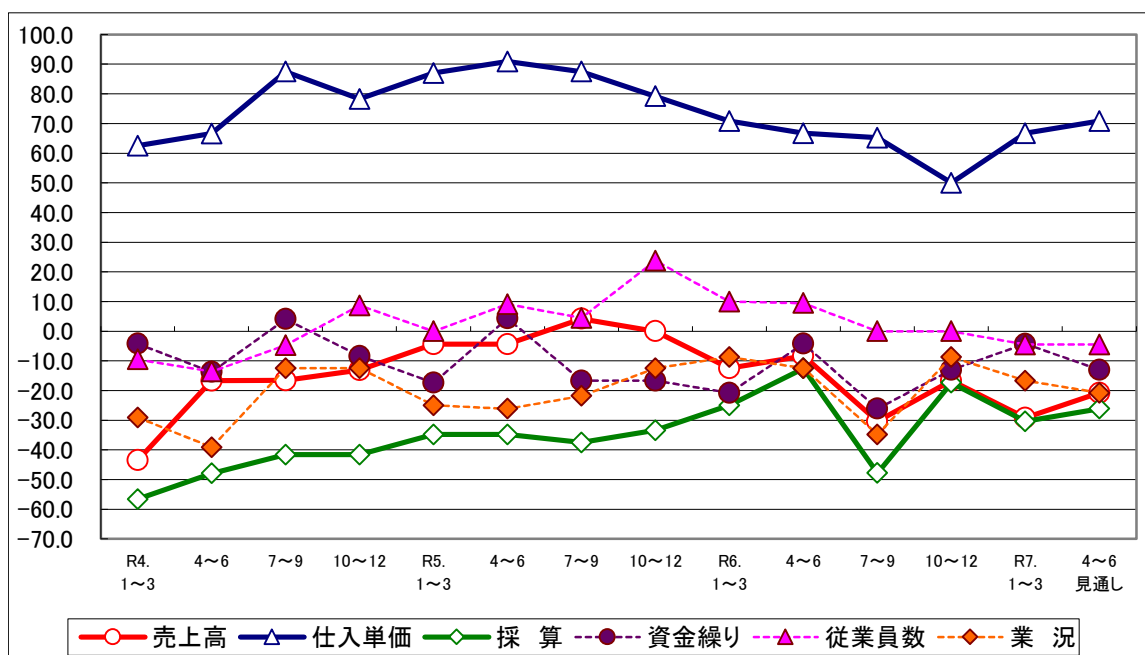
最後に、経営上の問題点については、「原材料価格の上昇」への指摘が最も多く、28.9%（1位～3位に挙げた企業47.4%）を占めた。その他、「原材料諸経費の値上げによって利益は圧迫され、商品の値上げも再度検討しなければ…」 「原料高、人件費高騰などの経費上昇が大きく、賃上げについていけない」など、悲観的な見方が多かった。

建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

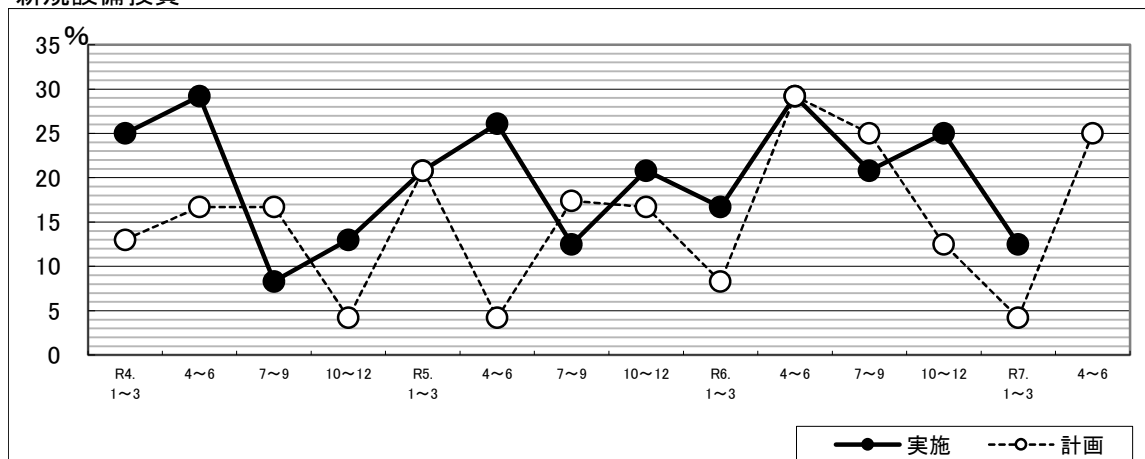
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
R4.1～3	▲ 43.5	62.5	▲ 56.6	▲ 4.2	▲ 9.5	▲ 29.1
4～6	▲ 16.7	66.6	▲ 47.9	▲ 13.7	▲ 13.6	▲ 39.1
7～9	▲ 16.6	87.5	▲ 41.6	4.1	▲ 4.7	▲ 12.5
10～12	▲ 13.1	78.3	▲ 41.6	▲ 8.4	8.7	▲ 12.5
R5.1～3	▲ 4.4	87.0	▲ 34.8	▲ 17.4	0.0	▲ 25.0
4～6	▲ 4.4	90.9	▲ 34.8	4.3	9.1	▲ 26.1
7～9	4.2	87.5	▲ 37.5	▲ 16.7	4.5	▲ 21.8
10～12	0.0	79.2	▲ 33.4	▲ 16.7	23.8	▲ 12.5
R6.1～3	▲ 12.5	70.8	▲ 25.0	▲ 20.8	10.0	▲ 8.7
4～6	▲ 8.3	66.7	▲ 12.5	▲ 4.2	9.5	▲ 12.5
7～9	▲ 30.4	65.2	▲ 47.8	▲ 26.1	0.0	▲ 34.8
10～12	▲ 16.7	50.0	▲ 17.4	▲ 13.0	0.0	▲ 8.7
R7.1～3	▲ 29.2	66.7	▲ 30.4	▲ 4.3	▲ 4.5	▲ 16.7
4～6見通し	▲ 20.8	70.8	▲ 26.1	▲ 13.0	▲ 4.5	▲ 20.8

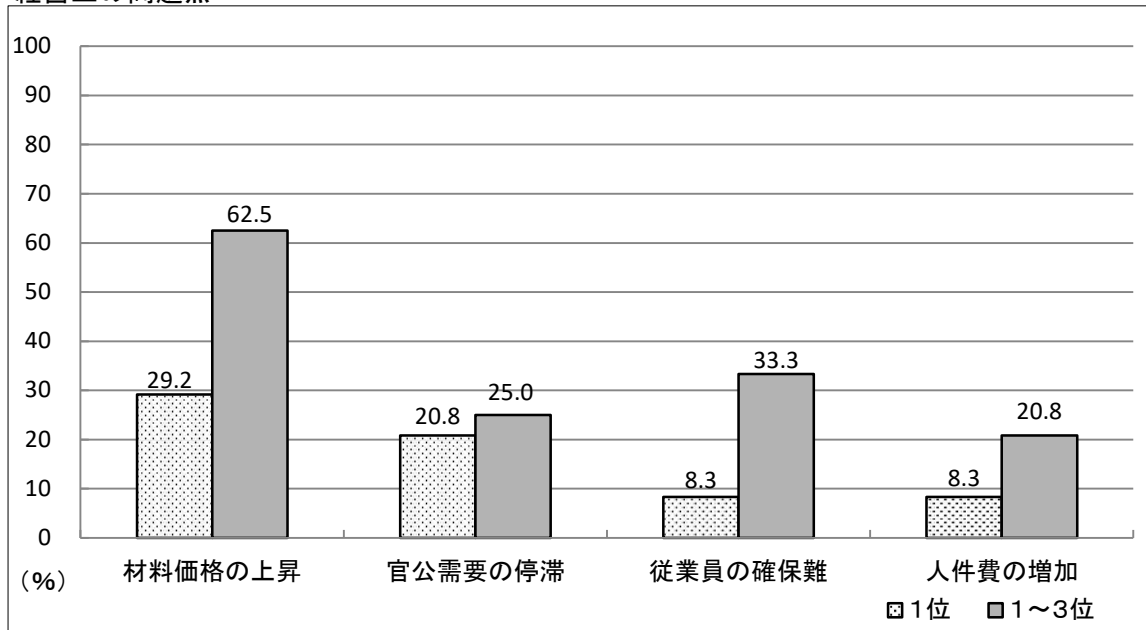
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・人材不足です。現場・書類（事務）をこなすには足りません。
- ・例年にくらべ官公庁の発注が少ない。材料費の上昇も止まらない。来年度に向けての明るい話題が少ないのも気がかりである。
- ・今期も公民共積極的な設備投資は減少している。材料費は益々値上がりしていて、工事費も高騰している。少しでも経費を抑えていかなければならないと思っている。

建設業の景況

福井県内におけるR6年4月－R7年2月期の建設需要をみると、公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）で、請負金額が累計1,237億37百万円の前年同期比4.2%の増加、発注件数では同2,970件の同11.8%減となっている。主な発注者別でみると、県関連工事が391億72百万円の前年同期比15.9%減となったものの、市町村関連工事は396億10百万円の同5.6%増であった。そのほか国関連工事は254億17百万円で、同49.5%の大幅増加となっている。一方、住宅投資については、R6年4月－R7年2月の累計で、前年同期比12.7%減の2,931戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比1.2%減の1,651戸、貸家が同32.9%減の1,288戸となっている。住宅業界では、引き続き木材価格の高騰や人手不足などから厳しい経営環境を強いられている企業が多い。

今回の景況調査でも、景況感を示すDI値6項目のうち改善した項目が1項目にとどまり、その他の項目は悪化傾向を示している。各項目別のDI値をみると、売上高が前期▲16.7→今期▲29.2、仕入単価（逆指数）が前期50.0→今期66.7、採算が前期▲17.4→今期▲30.4、資金繰りが前期▲13.0→今期▲4.3、従業員数が前期0.0→今期▲4.5、業況が前期▲8.7→今期▲16.7となっている。また、先行き（R7年4－6月期）については、改善予想が2項目にとどまり、依然厳しい経営環境が続くものと思われる。

一方、今期の新規設備投資については、計画の4.2%に対し実施が12.5%となり、実施が計画を上回っている。先行き（R7年4－6月期）については、何らかの投資を予定する企業が25.0%となっており、投資意欲の復活が期待される。

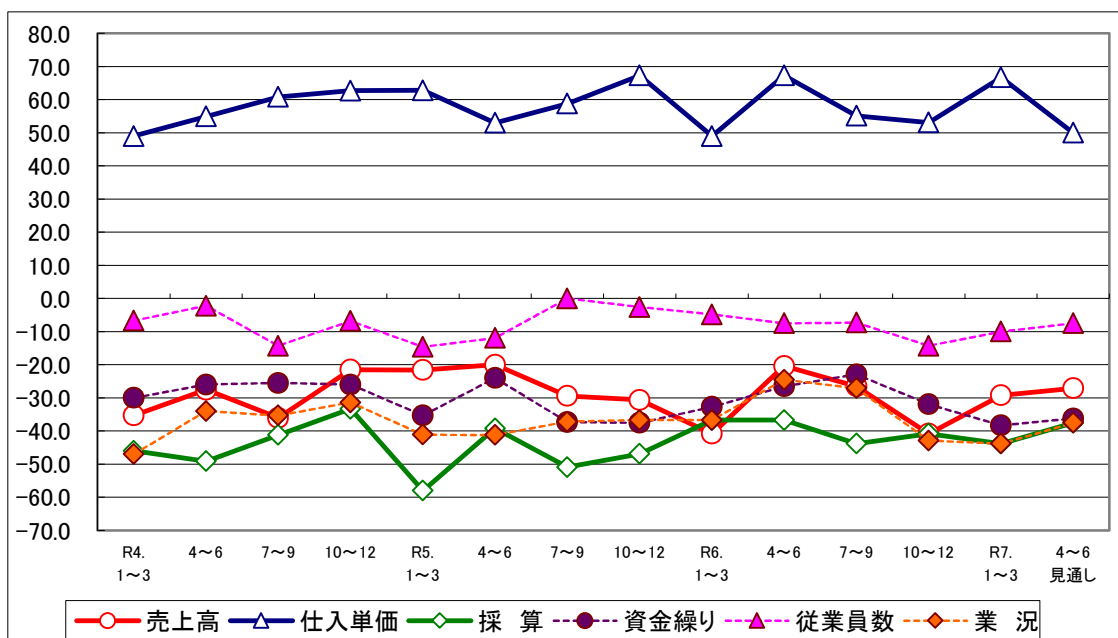
最後に、経営上の問題点については、「材料価格の上昇」が最も多く29.2%（1位～3位に挙げた企業62.5%）を占めた。個別の見解としては、人材不足、材料費の上昇、官公庁需要の減少など、厳しい声が聞かれた。

小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

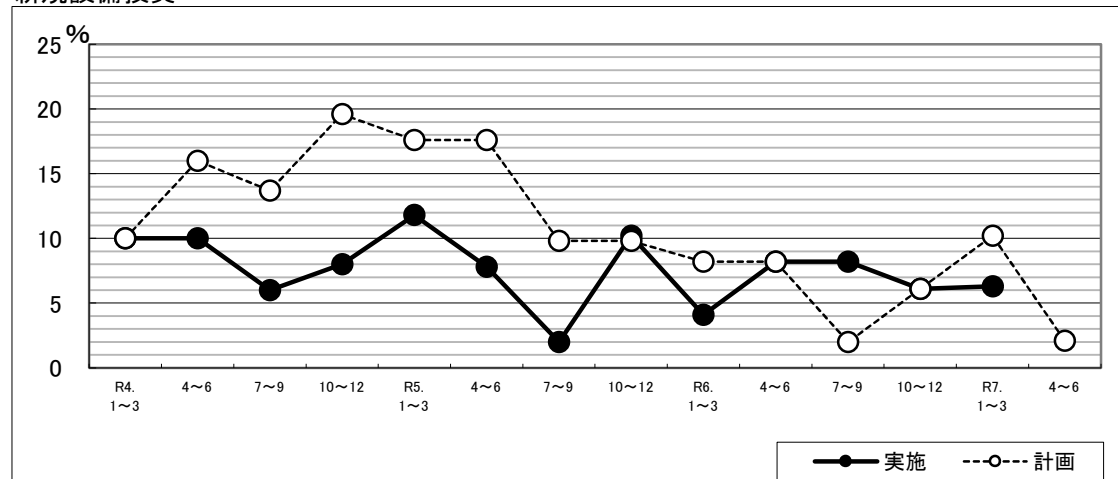
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
R4.1~3	▲ 35.3	49.0	▲ 46.0	▲ 30.0	▲ 6.7	▲ 47.0
4~6	▲ 27.5	54.9	▲ 49.1	▲ 26.0	▲ 2.2	▲ 34.0
7~9	▲ 36.0	60.8	▲ 41.2	▲ 25.5	▲ 14.3	▲ 35.3
10~12	▲ 21.5	62.7	▲ 33.3	▲ 26.0	▲ 6.8	▲ 31.4
R5.1~3	▲ 21.6	62.8	▲ 58.0	▲ 35.3	▲ 14.6	▲ 41.1
4~6	▲ 20.0	53.0	▲ 39.2	▲ 24.0	▲ 11.9	▲ 41.2
7~9	▲ 29.4	58.8	▲ 50.9	▲ 37.3	0.0	▲ 37.2
10~12	▲ 30.6	67.3	▲ 46.9	▲ 37.5	▲ 2.6	▲ 36.7
R6.1~3	▲ 40.8	49.0	▲ 36.7	▲ 32.7	▲ 4.8	▲ 36.7
4~6	▲ 20.4	67.3	▲ 36.7	▲ 26.5	▲ 7.5	▲ 24.5
7~9	▲ 26.5	55.1	▲ 43.8	▲ 22.9	▲ 7.3	▲ 27.1
10~12	▲ 40.8	53.1	▲ 40.8	▲ 31.9	▲ 14.3	▲ 42.9
R7.1~3	▲ 29.2	66.7	▲ 43.8	▲ 38.3	▲ 10.0	▲ 43.8
4~6見通し	▲ 27.1	50.0	▲ 37.5	▲ 36.2	▲ 7.5	▲ 37.5

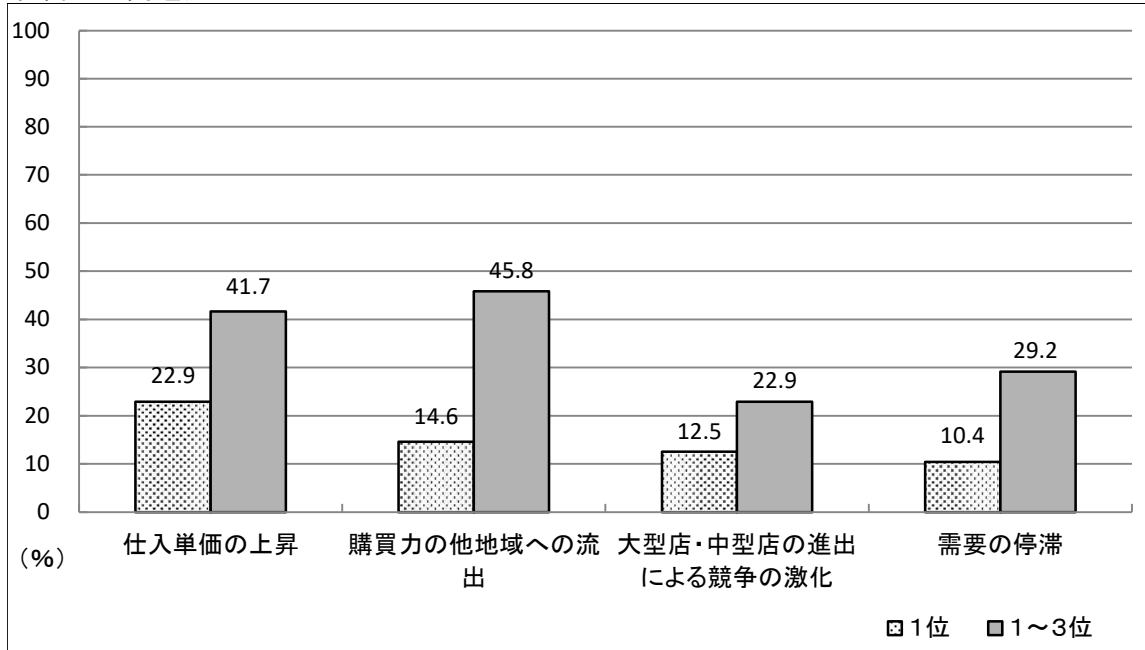
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

・競合他社となる大型ＳＣやスーパーの状況に関わらず、消費者需要が低下していると感じる。このまま資本力や資産背景の薄いものから順に廃業せざるを得なく、地域商店が壊滅的状況になると予想される。

・３月からの需要期に入り好転が期待される。４月には４年に一度の需要が昨年ほどではないが控えている。今年も売上が期待される。

・子供の人数減少のため、毎年同じ仕事があっても売上が減少していく。又、仕入単価の値上がりは、歯止めがきかないため、販売単価を上げているが、上げにくいものもある。お客様は高い値段しかみないため、買い控える。

小売業の景況

最近の小売商況を外観すると、北陸新幹線の県内開業効果による宿泊・飲食業の回復に加え、それに伴うドラッグストア、コンビニエンスストアなどの増勢もあって、全体としては持ち直しの動きを持続している。ちなみに、近畿経済産業局が公表するＲ７年１月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（速報値）は、衣料品や家具・家電・家庭用品が不振ながら、食料品などが堅調に推移したことなどから、前年同月比で８.１％上昇し、８４億５６百万円と、８か月連続のプラスとなった。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すＤＩ値６項目中２項目のみが改善傾向、４項目で悪化傾向を示している。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲４０.８→今期▲２９.２、仕入単価（逆指数）が前期５３.１→今期６６.７、採算が前期▲４０.８→今期▲４３.８、資金繰りが前期▲３１.９→今期▲３８.３、従業員数が前期▲１４.３→今期▲１０.０、業況が前期▲４２.９→今期▲４３.８となっている。ただ、先行き（Ｒ７年４～６月期）については、６項目全てが改善予想となっており、幾分の持ち直しが期待できる。

一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の１０.２％に対し実施は６.３％と実施が計画を下回っている。先行き（Ｒ７年４～６月期）についても、何らかの投資を計画する企業は２.１％にとどまり、低調な投資マインドが続く模様である。

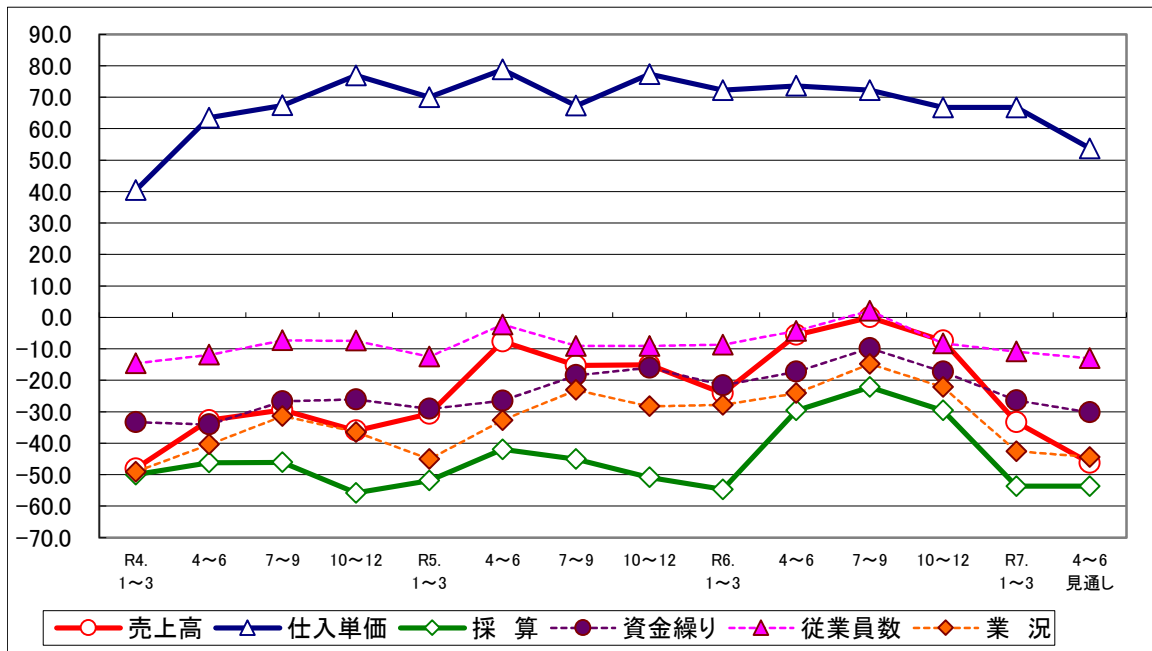
最後に、経営上の問題点については、「仕入単価の上昇」が最も多く、１位に挙げた企業ウエイト２２.９％、１位～３位までに挙げた企業４１.７％となった。その他の見解としては、「消費需要が減少している」、「地域の商店は壊滅的状況」など、先行きへの不安に悩む企業の動向が見て取れた。

サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

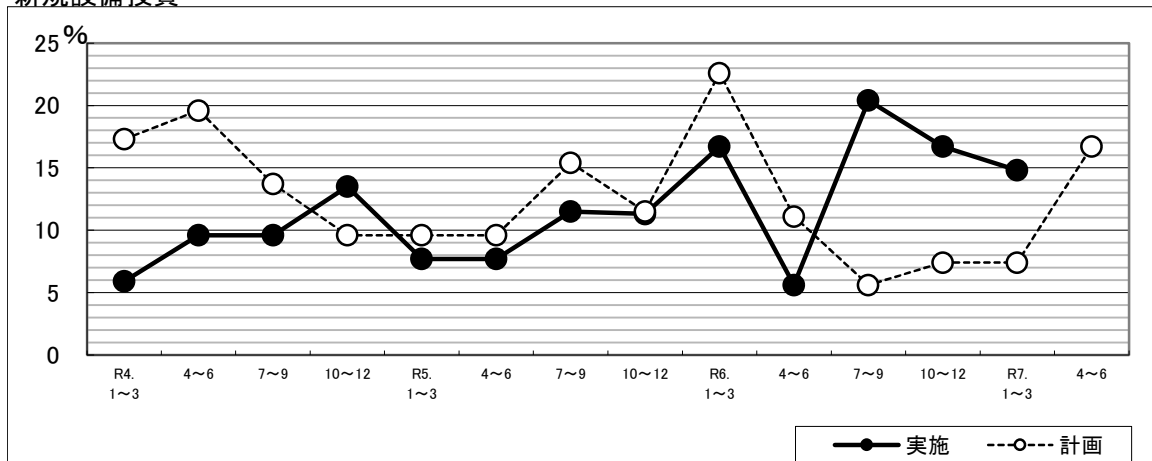
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採 算	資金繰り	従業員数	業 況
R4.1～3	▲ 48.1	40.4	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 14.6	▲ 49.1
4～6	▲ 32.7	63.5	▲ 46.2	▲ 34.1	▲ 11.9	▲ 40.4
7～9	▲ 29.4	67.4	▲ 46.1	▲ 26.7	▲ 7.3	▲ 31.4
10～12	▲ 36.0	76.9	▲ 55.8	▲ 26.1	▲ 7.4	▲ 36.5
R5.1～3	▲ 30.7	70.0	▲ 51.9	▲ 29.1	▲ 12.5	▲ 45.1
4～6	▲ 7.7	78.8	▲ 42.0	▲ 26.5	▲ 2.3	▲ 32.7
7～9	▲ 15.3	67.3	▲ 45.1	▲ 18.4	▲ 9.1	▲ 23.1
10～12	▲ 15.1	77.3	▲ 50.9	▲ 16.0	▲ 9.1	▲ 28.3
R6.1～3	▲ 24.1	72.2	▲ 54.7	▲ 21.6	▲ 8.7	▲ 27.8
4～6	▲ 5.6	73.6	▲ 29.6	▲ 17.3	▲ 4.3	▲ 24.1
7～9	0.0	72.2	▲ 22.2	▲ 9.8	2.1	▲ 14.8
10～12	▲ 7.4	66.7	▲ 29.6	▲ 17.3	▲ 8.3	▲ 22.2
R7.1～3	▲ 33.3	66.7	▲ 53.7	▲ 26.4	▲ 10.9	▲ 42.6
4～6見通し	▲ 46.3	53.7	▲ 53.7	▲ 30.2	▲ 13.0	▲ 44.4

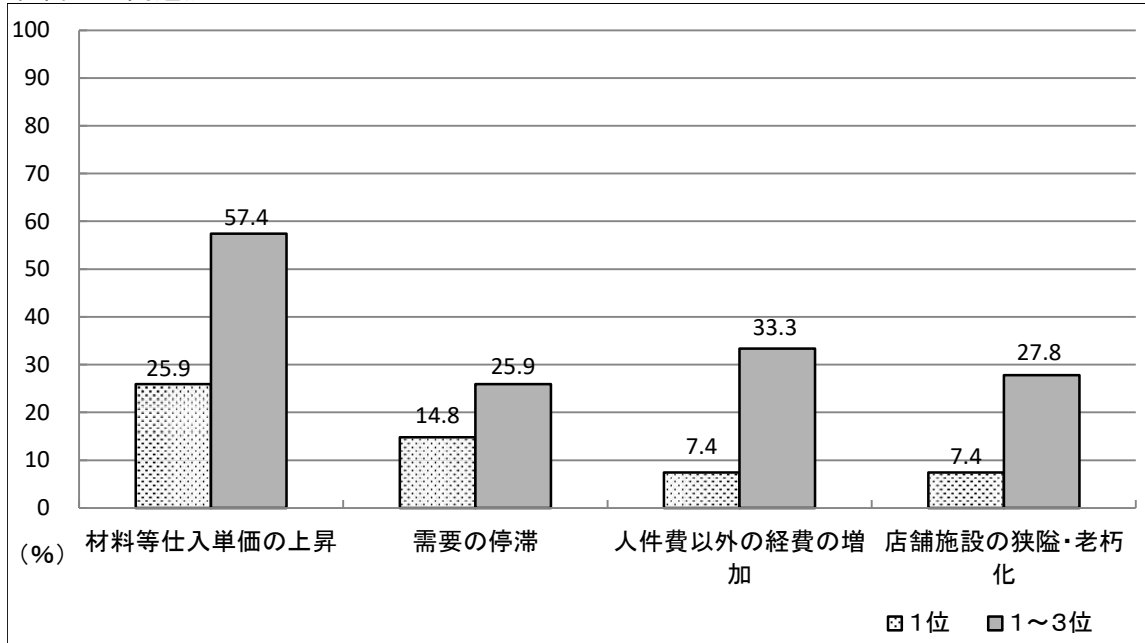
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・物価高騰により更に消費者の低価格志向が進み、顧客の利用回数が減ってきている。また地域的に高齢化が進み人口の減少が止まらず、見通しは暗い。
- ・当店のような個人飲食店は材料仕入単価の値上がりが一番辛い。コメの仕入価格は2倍になり、収益を圧迫している。
- ・次世代の事業後継者が育たない。育成しようとしてもその為の人件費が捻出できない。

サービス業の景況

経済産業省が毎月公表する第3次産業活動指数（季節調整値）は、2024年12月現在で101.9、前月比0.1%の上昇となった。これまでのサービス産業活動は、2024年7月が上昇、8月が低下、9月、10月が2か月連続で横ばい、11月が低下となった後、12月は「金融業、保険業」、「情報通信業」などの業種が上昇したことから、全体として5か月ぶりの上昇となった。業種別では、上昇した業種が「金融業、保険業」、「情報通信業」、「生活娯楽関連サービス」等で、低下した業種が「運輸業、郵便業」、「卸売業」、「小売業」等であった。これにより、サービス業全体では引き続き一進一退の状況にあることがうかがえる。

こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中5項目で悪化傾向を示すなど、業界全体として予断を許さない状況であることがうかがえる。項目別の指数は、売上高が前期▲7.4→今期▲33.3、仕入単価（逆指数）が前期66.7→今期66.7、採算が前期▲29.6→今期▲53.7、資金繰りが前期▲17.3→今期▲26.4、従業員数が前期▲8.3→今期▲10.9、業況が前期▲22.2→今期▲42.6となっている。また、先行き（R7年4～6月期）については、改善予想1項目、悪化予想が4項目、横ばいが1項目となり判断にバラツキがみられる。

一方、新規設備投資については、計画7.4%に対し実施が14.8%と、実施が計画を大幅に上回っている。先行き（R7年4～6月期）についても、何らかの投資を考える企業が16.7%と今期以上の改善が予想される。

最後に、経営上の問題点については、「材料等仕入れ単価の上昇」（1位に挙げた企業25.9%、1位～3位までに挙げた企業57.4%）への指摘が最も多い。個別の見解として、物価高騰による客離れへの懸念や後継者問題など、総じて経営環境の厳しさを憂う声が目立っている。

全国・福井景気動向 令和7年1月～3月（対前年同期比：DI値）

D I 値	100～15.1	15～0.1	0.0	-0.1～ -15	-15.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	横ばい	やや悪化	悪化

業種別 / 項目別		売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
全国	全体						
	DI値	▲ 16.8	70.5	▲ 30.9	▲ 18.3	▲ 5.6	▲ 22.8
	製造業						
	DI値	▲ 15.1	70.0	▲ 26.3	▲ 16.1	▲ 6.6	▲ 20.1
	建設業						
	DI値	▲ 15.6	73.0	▲ 25.2	▲ 11.8	▲ 6.9	▲ 16.3
	小売業						
	DI値	▲ 25.5	68.4	▲ 37.0	▲ 23.5	▲ 4.4	▲ 32.6
	サービス業						
	DI値	▲ 12.4	70.7	▲ 31.2	▲ 18.3	▲ 4.3	▲ 22.3
福井	全体						
	DI値	▲ 27.4	69.9	▲ 41.1	▲ 25.5	▲ 7.6	▲ 35.4
	製造業						
	DI値	▲ 15.8	81.1	▲ 26.3	▲ 21.1	▲ 2.8	▲ 26.3
	建設業						
	DI値	▲ 29.2	66.7	▲ 30.4	▲ 4.3	▲ 4.5	▲ 16.7
	小売業						
	DI値	▲ 29.2	66.7	▲ 43.8	▲ 38.3	▲ 10.0	▲ 43.8
	サービス業						
	DI値	▲ 33.3	66.7	▲ 53.7	▲ 26.4	▲ 10.9	▲ 42.6

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。